

氏名	上岡 亮
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5798 号
学位授与の日付	平成30年9月27日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Prognostic significance of the sodium channel blocker test in patients With Brugada syndrome. (Brugada症候群における予後予測指標としてのピルジカイニド負荷試験の有用性)
論文審査委員	教授 笠原真悟 教授 成瀬恵治 教授 大月審一

学位論文内容の要旨

ナトリウム (Na) チャネル遮断薬負荷試験は潜在性 Brugada 症候群において典型的な Brugada 波形を顕在化させ、確定診断するための試験として行われる。今回、Brugada 症候群において、ピルジカイニド負荷試験が診断のみならず、リスク評価法として有用かどうかを検討した。対象は岡山大学病院で負荷試験を行った連続 245 例の Brugada 症候群患者とし、薬剤負荷時の心電図変化と観察期間中の致死的不整脈イベントとの関係を検討した。対象は 181 例が自然 type1 波形、診断時点で 154 人が無症候であった。多変量解析の結果、失神の既往、薬剤負荷後の著明な ST 上昇、薬剤誘発性心室性不整脈の 3 つが独立した予後予測因子であった。これらの結果から、Brugada 症候群における Na チャネル遮断薬負荷試験は、診断を目的とした検査であるのみならず、突然死のリスク予測にも有用であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

研究の背景と目的：ナトリウムチャネル遮断薬負荷試験は潜在性 Brugada 症候群において典型的な Brugada 波形を顕在化させ、確定診断するための試験として行われる。今回、Brugada 症候群において、ピルジカイニド負荷試験が診断のみならず、リスク評価法として有用かどうかを検討した。

予備審査における疑問点や問題点：このような重症な不整脈を引き起こす Brugada 症候群に対し、負荷試験は十分な処置と、合併症への対応が重要である。とくに不顕性（無症候）であるこの症候群に対して、負荷試験によって 5 例に電氣的除細動が必要であった。負荷試験後の合併症は認められなかったものの、十分かつ周到な準備とそれに対する対応が重要である。Brugada 症候群は致死的な不整脈を起こし、そのために予防的に ICD 挿入を行うということが現在までの治療の中心であった。しかしながら今回のこの研究においては、カテーテルアブレーションによって治療可能で、未然に重症な不整脈を治療できるという点で非常に意義のある研究であると思われる。また、この疾患の遺伝子異常も報告されているが、この研究でもその遺伝子異常の頻度を明らかにしている。更なる研究で遺伝子病としていくつかの解析を進めていただきたいと考える。

以上のことから、本研究は、斬新なアイデアに基づく注目すべき研究であり、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める